

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2019年6月

第62号

主な予定

自然観察会

6月2日(日)

6月23日(日)

7月14日(日)

生き物観察会

6月30日(日)

9:45~12:00

柏土小学校来園

6月12日(水)

9:10~

生徒約60人

柏第四小学校来園

6月17日(月)

14:00~

生徒約120人

ライト・トラップ 昆虫観察会

7月6日(土)

18:55~21:00

退任に際して

前会長 石渡 信之

4月の総会から早いもので、すでに一月以上が経過しました。5月後半には真夏を思わせるような暑い日がありましたが、市道際も含めツリフネソウエリアがきれいに草刈りされており、皆さまの活発な活動の様子が伺え、敬服いたしました。

思い返せば、2005年(平成17年)6月15日、広報かしわに「市民で育てる100年の森」が1面トップで大きく掲載され、強く目を引き付けました。定年まで10年を切った時点で、引退後は地元にかかわることがしたいと考えていたところに、ぴったりとはまりました。

その年の11月に都市緑地準備室〔室長吉川さん、今井さん(私のチェンソーの先生)など〕の方々に開催していただいた、「市民ボランティア講習会」を1日ばかりで受け、午前は市役所の講堂で吉川さんから整備計画と管理方針の説明、3名の先生から調査方法などについて講義があり、午後は実地研修ということで「こんぶくろ池管理棟前」(当時は何も施設が無く、ちょっとした空き地)に集合し、予定地の中を一回りしました。

翌年2006年4月から森さんを会長に「里山隊」が組織され、活動を始めました。最初の活動は公園清掃ということで、最初の数年は2本の閉鎖道路脇のごみ拾いと旧ホテルリーベ前の笹刈りから始めて、ごみ拾いと笹刈りに明け暮れていたような記憶があります。雨の日も10人以上が集まり、雨合羽を着て汗まみれになって活動をしました。

2010年4月からは「NPO法人 こんぶくろ池自然の森」となり、「調査隊」と合流して新体制となりました。法人化により、柏市より「公園管理委託業務」を受託し、また、国土交通大臣表彰や各種助成金の交付を受け、園路整備の資材やチェンソー、発電機などの機材購入およびハンドブックなどの発行や、調査のための資機材整備が進められました。活動を始めた数年間は、のこぎり・鎌一つでアズマネザサを刈っていて、今とは雲泥の差があります。

活動の拡大に伴い、平日の開園や一号近隣公園も守備範囲となり、業務量は大幅に増加しました。この大部分を古橋さんお一人にお任せ

する形となり、継続が難しくなり、昨年は大幅に委託業務内容を見直しました。最初の形に戻って北部地区限定、土日祝日での受託業務、新管理当番制度として取り組みました。

2019年度はこの内容を踏襲しましたが、理事会、事務局に新メンバーを迎えることができ、また新規加入の会員もあって、今後、当NPOの新生が図れるものと思っています。

昨年10月、大切な仲間であった古橋さんと永の別れとなったことは残念でなりません。また、私も同時期体調不良となりました。会員の皆様におかれましても、ご自身の健康には最大限留意されますようお願いいたします。

これまで多くのお仲間と楽しい時間を「こんぶくろ池」で過ごすことができ、皆様に深く感謝いたします。

こんぶくろ池公園 鳥の調査活動

宗像 清子

こんぶくろの森での鳥の調査を始めて4年が過ぎました。

初めの頃は鳥の種類が少なく調査記録がさみしいものでしたが、回数を重ねるうちに参加者の目、耳が慣れてきたということもあり、少しずつ種類も増えてきました。渡りの途中の夏鳥 キビタキが立ち寄った時には非常に驚き、嬉しくなったものです。

そして、なんと言ってもオオタカの存在（以前は国内希少野生動植物類に指定されていましたが、近年は人の多い都会周辺でも見ることができるようになり、2017年に指定が解除されました）。そして、エゾビタキ、コサメビタキ、イソヒヨドリ、イカル、アカゲラのような珍しい鳥も見られるようになり、森の変化を感じるようになりました。

そして2年前には一号近隣公園が開園。そこに続く道路もでき、こちらの方まで調査範囲を広げるようになりました。そのことにより、こんぶくろの森を出ると一変、全く違う環境に変わり、そこには車が走り、電線があり、空地、原っぱ、宅地、遠くの方に森が見え、その環境にあった鳥の姿が見られるようになります。そして一号近隣公園に入ると、また今までとは違った環境となり、そこでまたその場に合った鳥が見られる……。この3つの違った環境で、観察できる鳥の種類も増えたことで楽しみも増え、開放感を感じるようになりました。

その頃からフィールドスコープを持ち歩くようになり、20倍のレンズで見る鳥の姿に、「かわいい、きれい、かつこいい」という声がかかります。

2018年1月～2018年12月
毎月第3火曜日 9:00～12:00

		2018年											
月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日		16	20	20	17	15	19	休	休	18	16	13	18
天候		晴	晴	雨	晴	晴	晴			晴	晴	晴	晴
参加人数		3	6	中止	7	4	5			4	5	7	7

No.	科	種名	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年											
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	ハタオリドリ	スズメ	○	○	○	○	●	●		●	●	●			●	●	●	●
2	モズ	モズ	○	○	○	○										●	●	●
3	カラス	カケス	○	○	○	○										●		
4		ハシボソガラス	○	○	○	○	●	●		●	●	●			●	●	●	●
5		ハシボソガラス	○		○												●	
6	シジュウカラ	シジュウカラ	○	○	○	○	●	●		●	●	●			●	●	●	●
7		ヤマガラ	○		○	○												●
8	ヒバリ	ヒバリ	○	○					●	●	●							
9	ツバメ	ツバメ		○	○	○				●	●	●						
10	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	●	●		●	●	●				●	●	●
11	ウグイス	ウグイス	○	○	○	○	●			●	●	●				●		●
12	エナガ	エナガ	○	○	○	○	●	●			●							
13	ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○	●			●	●							
14	ツグミ	ツグミ	○	○	○	○	●	●		●								
15		シロハラ	○	○														
16		イソヒヨドリ		○														
17		ジョウビタキ	○		○	○												●
18	ヒタキ	キビタキ			○	○												
19		コサメビタキ				○												
20		エゾビタキ			○													
21	セキレイ	ハクセキレイ	○	○	○	○	●	●		●								
22		セグロセキレイ		○														
23	アトリ	アトリ			○													●
24		カワラヒワ	○	○	○	○	●			●	●						●	
25		シメ	○	○		○				●								
26		イカル				○												
27	ホオジロ	ホオジロ	○	○	○	○	●	●		●	●	●				●	●	
28		カシラダカ	○	○													●	●
29		アオジ		○		○	●	●										
30	キツツキ	コゲラ	○	○	○	○	●	●			●	●			●		●	●
31		アカゲラ		○		○	●											
32	キジ	コジュケイ	○	○	○	○				●							●	
33		キジ		○		○			●		●							
34	ハト	ドバト		○														
35		キジバト	○		○	○	●	●		●								
36	カモ	カルガモ	○	○		○										●		
37		ハシビロガモ															●	●
38	サギ	アオサギ	○	○		○	●	●								●	●	●
39	メジロ	メジロ	○		○	○	●										●	
40	ウ	カワウ		○		○												
41	タカ	オオタカ	○		○													
42		ノスリ															●	●
43	カワセミ	カワセミ					●											
合計(種)			27	29	25	30	18	13	—	14	14	10	—	—	4	10	16	13

「いつ、どこに、どんな種」がいるのか？鳥は季節、地域、環境によって見られる種類が違います。観察していてもいつもそうなのですが、鳥の姿が見えない時の方が多く、鳴き声で判断しなければなりません。これがとても難しく、分かるようになるまでかなりの年月がかかります。これには繰り返し聞いて慣れるしかありません。

よく耳にするコジュケイの鳴き方、「ちよつと来い、ちよつと来い」、ホオジロの「一筆啓上仕り候」、ホトトギスの「特許許可局」等々、聞きなしで覚えたり、自分で工夫して覚えたりするのも一つの方法です。本当にそのように聞こえるので面白いものです。

近頃はこんぶくろの森でも、アオジ、シメ、カワセミ、ツグミ、アトリ、ジョウビタキなどが普通に見られるようになりました。身近にいる鳥たちの声を聞き、姿を探してみましよう。

月一回3時間だけの調査なので、記録としては足りない点があると思いますが、何か得るものがあるのではと思います。

この近辺は新しくできたばかりの環境なので、鳥に限らずこれからさらに大きく変化していくことでしょう。日頃の皆様のご協力に感謝いたします。

文芸活動について

松田 和生

NPOにおける文芸事業に期待するもの

- ① NPO の設立の目的に沿って真剣に活動することは当然であるが、その実効性を担保するには、若干の余裕や遊びが必要である。気軽に集える憩いの場を提供して NPO 活動の充実発展に資する。
- ② NPO 会員の中には多趣味の方が多いと思われ、通常の活動では満たされない部分を補填する。
- ③ 文芸を通じ会員相互の理解を深め NPO 団結の一助とする。さらに NPO の間口を広げ、新たな会員の参加の環境を醸成する。
- ④ こんぶくろ池自然博物公園の PR に資する。

文芸事業として具体的に何をするか

当面は文学（短歌）のうち時節の話題になるような作品を紹介しつつ、会員に作品の投稿を依頼する。その他（俳句、川柳、コラム等）については、会員の希望等を考慮し柔軟に対応する。

そのため、活動拠点として「こんぶくろ池通信」に「こんぶくろカフェ」という特設コーナーを設けたいと思います。

こんぶくろカフェ



写真：藤原 俊和

語りつつ あしたの苑（その）を歩み行けば 林の中にきんらの咲く

この歌は、平成30年歌会始における当時の天皇陛下の御製です。宮内庁によると、陛下は皇后さまと朝の散策を日課にされており、皇居・東御苑の二の丸庭園で「きんらん」を見つけた時の情景を詠まれたとのこと。

さて、「きんらん」は春に咲くラン科の珍しい植物ですが、こんぶくろ池自然博物公園では4～5月頃に見ることができる大変人気のある花です（今年は盛りを過ぎたようです）。

春風がそよぎ、新緑が眩しい公園の奥まった遊歩道沿いに、鮮やかな金色の可愛い花を見つけることができます。

そこで陛下にあやかり一首。

風薫る 自然公園そぞろ行けば 色鮮やかにきんらの咲く

6月理事会

2019年6月1日（土）10:00～11:30

出席理事：岡本、萩原、上田、北田、中川、藤原

会計・書記：山上

審議検討事項

（1）柏市公園緑政課打合せ結果報告（5/22）

- ・ 今年度の調査についてもアジア航測が市から受託。
- ・ 水位測定、植生計画等について、アジア航測とNPOとの意見交換の場を定期的に設ける。特に導入が決まっている自動水位測定器の設置場所（2箇所）について早急に詰める（従前からの測定点（井戸）及び弁天池付近が候補）。
- ・ アジア航測にもできるだけ「報告会」等に参加していただけるよう、NPOからはたらきかける。
- ・ 外部団体による「観察会」等については、事前にその開催趣旨等を確認し、理事間で情報共有するように努める。

(2) 6月以降の取組方針の検討

- ・ 封鎖している木道箇所について、早期開放に向けて補修を市に対して再度要求する。
- ・ 橋の補修についても再度市に確認する。

(3) その他

- ・ 手賀沼流域フォーラム地域企画 企画書提出（スタンプラリー、キノコの観察会）
- ・ みどりの基金カシニワ制度助成金交付決定（231,000円）
- ・ 来年度NPO設立10周年に向けて準備を始める



イチモンジチョウ



ゴマギとコアオハナムグリ



イボタノキとベニカミキリ



ハルジオンとアゲハ

写真：藤原 俊和

編集後記

藤原さんが毎週のように「本日のこんぶくろ池自然博物公園」と題して、上記のような植物や昆虫のきれいな写真とともに、“今のこんぶくろ池公園”を紹介してくださっています。これをホームページやフェイスブックにも掲載していますが、一般の方々からの評判も非常に良いようで、多くの「いいね」ボタンが押され、実際にこれを見て足を運んでくださった方もいるようです。自然観察会やイベント情報など、これからも公園の魅力の発信に努めていきたいと思えます。（萩原秀夫）